

地域密着型金融の取組事例について

タイトル 青年部七戸支部の食育活動 JA名 JA十和田おいらせ (青森県)

1 動機 (経緯)	田植えから稲刈りまでの一連の稲作体験から水田の多面的機能を学んでもらい、米に関する理解と少しでも農業に対し感心をもってもらおうと、町内にある小学校へ打診したのがきっかけでした。 今では、町内2つの小学校5年生の学年行事となり、毎年約100名の児童及び保護者で賑わっています。
2 概要	①稲作体験 (面積: 12a、品種: アネコモチ) ②対象: 町内2小学校 5年生 6月上旬: 田植え (手植え、田植え機試乗) 10月上旬: 稲刈り (手刈り、コンバイン試乗) 11月下旬: 収穫祭 (それぞれの体育館にて保護者と一緒に餅つき)
3 成果 (効果)	頂いた感想文の中で、田植から稲刈りまでの体験を通じて、「お米をひと粒、ひと粒を大事に食べていこうと思いました」との感想がありました。 児童の感想文から、普段当たり前のように口にしているご飯を「大事に」といった声は、活動の成果です。
4 今後の 予定 (課題)	今後も学校とタイアップし、活動を継続していきます。